

# 文化財とともに

生きていく

ドージャー記念館  
次の100年に向けて



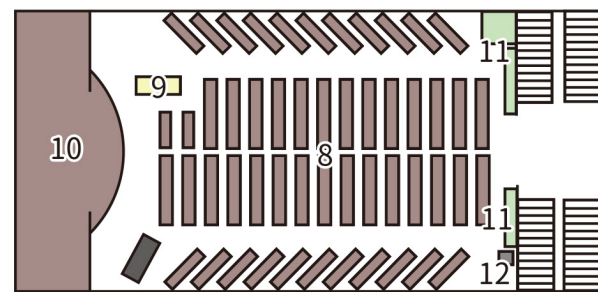
「文化財とともに生きていく」リーフレット  
編集: 鬼束芽依 (西南学院大学博物館学芸調査員)  
2020年2月3日発行

西南学院大学博物館  
SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

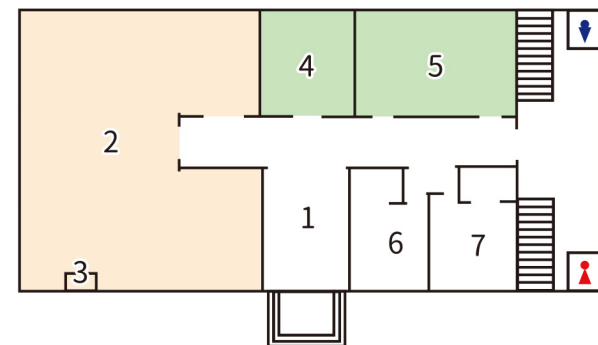
## 西南学院大学博物館平面図



3階 13. 学院史関係展示コーナー



2階 8. 長椅子  
9. パイプオルガン  
10. ステージ  
11. 展示コーナー  
12. 床下コークス展示



1階 1. エントランス  
2. 常設展示室  
3. 壁の内部構造展示  
4. ドージャー記念室  
5. 特別展示室  
6. 事務室  
7. 館長室

### 次の100年に、伝えていくために。

西南学院大学博物館の建物であるドージャー記念館は、西南学院旧本館として1920年に着工されました。2020年までの100年の間に、旧本館はたくさんの生徒を見守った学び舎からキリスト教文化を伝える博物館へと生まれ変わりました。また、2015年には福岡県指定有形文化財に指定され、「文化財」としての人生を歩んでいます。次の100年へ、この「文化財」とともに生きていくために、わたしたちはどんなことができるのか、この建物の中で一緒に考えてみませんか。



- 1916年 福岡市大名町に「私立西南学院」が設立
- 1918年 早良郡西新町（現福岡市早良区西新）に移転
- 1920年 西南学院旧本館（現ドージャー記念館・西南学院大学博物館）の工事着工
- 1921年 西南学院旧本館の工事竣工
- 2000年 「福岡市都市景観賞」を受賞
- 2002年 大学博物館の設置計画
- 2003年 中学校・高等学校が百道浜の新校舎に移転  
建物の耐震調査診断の実施
- 2004年 「福岡市指定有形文化財」に指定  
建物の補強改修工事着工
- 2005年 補強改修工事竣工
- 2006年 「西南学院大学博物館（ドージャー記念館）」開館
- 2015年 「福岡県指定有形文化財」に指定
- 2016年 西南学院創立100周年  
大学博物館開館10周年
- 2020年 西南学院旧本館（現ドージャー記念館・西南学院大学博物館）着工から100年



### 次の100年に、光を繋いで

ヨーロッパでは、中世以来教会のステンドグラスは宗教的・芸術的理念の下、職人達の手によって修復が綿々と引き継がれてきました。本展覧会では、フランス国立高等工芸美術学校で本格的なフランス古典技法を学び、帰国後に工房を設立し、数多くのステンドグラスの修復を行ってきた平山健雄氏の協力のもと、平山氏による中世のステンドグラスの模写やステンドグラス制作のための道具を展示します。また、平山氏が手掛けた横浜市開港記念会館やラーハウザー記念東北学院礼拝堂のステンドグラスの修復について紹介します。



ひらやま たけお  
平山健雄氏 光ステンド工房代表

武蔵野美術大学実技専修科研究課程を修了後、在学中から見習いをしていたステンドグラスの工房に入社。  
27歳の時に、フランスの国立高等工芸美術学校ステンドグラス科へ留学する。ステンドグラスの古典技法を3年間学び、帰国後、都内で工房を設立。34歳の時に横浜の光溢れる高台に工房を移す。  
工房にて注文制作をする傍ら、週に一度古典技法の教室を開いている。



## 第1章

### ドージャー記念館の100年

—学び舎から文化財へ、そして博物館へ—

ドージャー記念館は、西南学院旧本館として1920年に着工し、学び舎・西南学院のシンボルとして生徒をはじめとした地域の方々に親しまれてきました。その後、西南学院中学校・高等学校の百道浜キャンパス移転に伴い、改修工事を経て2006年に「西南学院大学博物館」へと生まれ変わりました。この建物は、2004年に「福岡市指定有形文化財」、2015年には「福岡県指定有形文化財」に登録され、「文化財」としての顔も持っています。第1章では、ドージャー記念館の文化財登録・保存・活用の取り組みや、博物館に生まれ変わるまでの歩みについて見ていきます。



1920と刻まれた、ドージャー記念館の礎石（建物西側）



2015年に福岡県指定有形文化財に登録（入口右横）



「九州学院 講堂兼礼拝堂〔現 ブラウン・メモリアル・チャペル〕立面図（複製）/1924（大正13）年 / W. M. ヴォーリズ / 西南学院大学博物館蔵（原資料：株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所蔵）

## 第2章

### ヴォーリズ建築

—生き続けるミッション建築としての文化財—

1905（明治38）年、外国伝道の熱意と共に来日したアメリカ人の青年ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（William Merrell Vories 1880-1964）は、伝道事業家・伝道建築家として生涯日本に留まり続け、日本各地にミッション建築を残していきました。「ヴォーリズ建築」と呼ばれるそれらのミッション建築は、在りし日の日本のすがたを伝える「文化財」であるのと同時に、現代もお信徒たちによって保存・活用されている「生き続けるミッション建築」でもあります。第2章では、ヴォーリズ建築の図面と共に、生き続ける文化財の今昔を紹介します。

## 第3章

### 甦る文化財

—ステンドグラス修復の現場を訪ねて—

わたしたちと同じように、文化財もまた時を重ねていきます。時と処を越えて、文化財を守る技術は次の時代に受け継がれてきました。第3章では、ステンドグラスの専門家として文化財の保存修復に携わってきた平山健雄氏の仕事を紹介します。美しい中世のステンドグラスが残るフランスで修復技術を学んだ平山氏は、開港場横浜の息吹を今に伝える横浜開港記念会館や東日本大震災を経ても耐え、今日も学院の祈りの場として生き続ける東北学院大学のステンドグラスの修復を手掛けました。平山氏の修復によって光が甦り、次の100年に繋がれています。



「馬の頭部」模写 / 14世紀 / イギリス オックスフォード マートンカレッジ/平山健雄氏所蔵



「グリザイユパネル」模写 / 13世紀 / フランス パリ ノートルダム大聖堂/平山健雄氏所蔵

※ステンドグラスの現物展示は3月14日（土）までとなっております。ご了承ください。

## 第4章

### 学び舎の足跡

—学生とともに歩んだ100年—

西南学院旧本館（ドージャー記念館）が完成し、その献堂式が行われたのは1921（大正10）年3月9日午前のことです。同日の午後には西南学院中学校の第1回卒業式が執り行われ、新築の本館からは初めての卒業生が巣立っていきました。その後も本館は、厳しい戦争や学生運動の時代を乗り越えながら、学生たちの学びや祈りの場として、学院の発展とともに今日までその長い年月を重ねてきました。第4章では、学び舎としての西南学院旧本館・ドージャー記念館が歩んだ100年を、写真や資料を通して見ていきます。



「西南学院高校の制帽」/1976年 / 馬奈木友道氏による寄贈品 / 西南学院史資料センター蔵

## 館内

### 見どころスポット

#### 館内を探してみよう！

博物館の中にはたくさんの見どころスポットがあります。ここで紹介するのはたったの3つですが、館内には100年間の歴史を感じさせるものが至る所にありますよ。ちょっと探検気分「あっ！あった！こっちにもあった！」とワクワクしながら館内を巡ってみてください。もちろん、建物の写真は撮り放題。卒業アルバムの写真撮影や、結婚式の前撮りなどにも利用される雰囲気たっぷりの館内で、ぜひ魅力あふれる写真にも挑戦してみてください！ ※三脚および展示物へのフラッシュの利用はご遠慮いただいております。

飾り手すりと柱の装飾

階段のゆがみ

ガラスのゆがみ

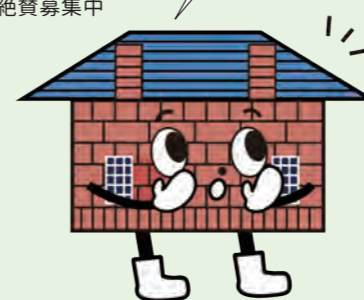
見どころは他にもたくさん！館内を歩いて探してみてください。

#### 博物館イメージキャラクター「ジョージくん」プロフィール

誕生日：1920年9月9日  
名前の由来：ジョージアン・コロニアル・スタイルという建築様式で建てられているので、頭を取ってジョージ。  
生みの親：ウィリアム・メレル・ヴォーリズ  
好きなもの：建物の中でしっかりお勉強してくれることもたち嫌いなもの：虫、湿気、体の中を走り回られること

今のところ、ジョージくんレギュラーグッズはスタンプラリーの景品であるコースターのみ！いつの日かもっともっといろんな人に愛されることを夢見て、地味に頑張っています。西南学院大学博物館公式Twitter (@seinan\_museum) でも、たま〜につぶやいていますよ！ジョージくんファン、絶賛募集中です。

ぼくって、大人でしょ？



100歳だもんね…

#### クイズコーナー

答えを組み合わせると、ジョージくんが今食べたいなあと思っているものを当ててください。

Q1. ドージャー記念館の建物に使われているレンガの積み方は？

⇨ オ○ンダ積み

Q2. ドージャー記念館の建物を設計した人物の名前は？

⇨ ウィリア○・メ○ル・ヴォ○リ○

Q3. ドージャー記念館は、何という建築様式で建てられている？

⇨ ジョージア○・コロニアル・スタイル

答えが分かった方は事務室へ！博物館オリジナルグッズをプレゼント。